

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00085

研究課題名（和文）トランスナショナルなイスラーム団体の定着と地域社会の多文化化に関する調査研究

研究課題名（英文）The Settlement of Transnational Islamic Movements and Multiculturalization of Local Communities in Japan

研究代表者

岡井 宏文 (Okai, Hirofumi)

京都産業大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：10704843

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、タブリーギ・ジャマーアトをはじめとする日本のイスラーム団体やモスクを対象として、i) 国内外に広がる組織・ネットワーク構造、活動を明らかにすること、ii) 団体やモスク等で展開する活動に参加する人々の意識を明らかにすること、iii) 地域社会の多文化化に伴う課題の解決に向けた視座を得ることを目的として以下の調査研究を実施し結果を報告した。(i)日本におけるタブリーギ・ジャマーアトの展開と、運動参加者間の緊張と交渉過程の分析。(ii)社会的活動、国内外のネットワーク、地域社会との関係の検討。(iii)ムスリムコミュニティの多様化、団体やモスクの社会活動の展開に関する情報の整理。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本のイスラーム団体やモスクの活動や活動に参加する人々の意識に注目して、地域社会の多文化化に伴う課題解決のあり様を検討した。その際、日本へのイスラームの定着過程や種々の変化（移住過程の進展と新たな活動の展開、社会的プロフィールの多様化、意識・態度の多様化に伴う参加者間の緊張・交渉・合意過程等）、国内外に広がるネットワークの影響を考慮した分析を行った。地域社会の多文化化に伴う課題解決を、より多角的・広範な視野で検討することができた。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted on the Tablighi Jama'at and other organisations and mosques in Japan. The objectives of the study were to i) identify the international organisational structure, networks and activities of Islamic organisations in Japan; ii) identify the attitudes of followers in the Islamic movement; and iii) provide a perspective on the challenges associated with the multiculturalisation of the local community. Throughout the research period, the following studies were conducted. (i) Analysis of Tablighi Jama'at's development in Japan and the tensions and negotiation processes between participants within the movement, (ii) Examination of the social activities, national and international networks and community relations of Muslims in Japan, (iii) Organising information on the diversification of the Muslim community in Japan and the development of social activities of Islamic organisations and mosques.

研究分野：社会学

キーワード：日本のムスリム イスラーム 地域社会 タブリーギ・ジャマーアト 移民

1. 研究開始当初の背景

現在日本には、約 23 万人のイスラーム教徒（ムスリム）が居住している。8 割が外国出身者である。その出身は、インドネシア、パキスタン、バングラデシュなど多様である。また婚姻や家族形成、自発的な改宗などを契機とする日本人ムスリムも増加傾向にある。日本では、1990 年代初頭より、各地の外国籍住民を中心として、イスラーム団体が形成され始めた。イスラーム団体は、地域のムスリムの需要を充足する担い手となってきた。特にモスクの設立活動が盛んであり、これまでに全国で 100 ヶ所以上が設立されてきた。

近年、日本のムスリム・コミュニティ周辺では、地域社会の多文化化とあいまって共生に関する課題（偏見・差別、異文化理解、社会的分離、学校等におけるムスリム対応等）が出現している。モスクやモスクを運営するイスラーム団体は、こうした課題解決のための地域社会との接点としての役割を期待される状況が出現している。

移民により構築されたコミュニティや制度が、ホスト社会との関係性においてどのような作用を生み出すのかという問いは、移民研究や宗教社会学の分野において重要課題であり続けてきた。欧米の研究を参照すると、宗教組織に関しては、社会統合や市民参加、移民の適応をめぐる議論の中で、信徒および地域社会にとっての「橋」/「壁」双方の見方が併存している状況にある（Foner and Alba 2008 等）。特にイスラーム団体の作用については、移民や難民の流入、社会統合/分離、安全保障、イスラモフォビア等をめぐるコンテキストの中で、最重要課題の一つとして多くの研究がなされている。イスラーム団体の中には、出身国の宗教組織など国民国家の領域をこえて広がるムスリム・ネットワークに接合されているものも少なくなく、地域社会におけるムスリムの態度形成にも影響を与えているとされる。移民社会におけるイスラーム団体の作用は、超国家的なネットワークの影響を踏まえたうえでの理解が必要不可欠となっている（Peucker & Ceylan, 2016 など）。研究開始当初、日本のイスラーム団体と信徒に関する研究は、前述の共生課題の発生状況や学術的重要性の高さとは裏腹に十分な蓄積が進んでいない状況にあった。そこで本研究は、イスラーム団体と信徒、地域社会に関する総合的な実態把握を行い、前述の問いに対しての学術的貢献を図るとともに日本社会とムスリム・コミュニティが相互理解を深め共存していくうえでの知見の提供を目指すこととした。

2. 研究の目的

本研究は、イスラーム団体を対象として、国内外に広がる組織構造・ネットワーク、活動実態、行為主体である信徒双方の実態を明らかにし、地域社会の多文化化に伴う共生課題解決に向けた視座を提供することを目的とした。

共生課題の出現によってイスラーム団体が地域社会における接点としての役割が期待される中、国際的なネットワークに埋め込まれた団体が、日本社会のコンテキストの中でどのように作用するのかを明らかにすることで、移民社会の宗教組織研究と共生課題解決への貢献を行うことを目指した。

移民社会のイスラーム団体に関する研究は、欧米を中心に盛んにおこなわれてきた。イスラーム団体は、ローカルな宗教団体として存在する一方、ヒト・モノ・情報等の移動を伴うグローバルな宗教ネットワークの一端としての側面を有するものも少なくない。移民社会におけるイスラーム団体研究の意義は、このようなローカル性とグローバル性を踏まえ、次のように要約できる。地域社会の課題について超国家的なムスリム・ネットワークの影響を考慮することが可能になる。地域の信徒のホスト社会における態度形成への影響を検証できる。さらに、地域のコンテキストが団体や信徒に与える影響を明らかにすることが出来る。本研究は、日本のイスラーム団体と信徒について、こうしたネットワークの影響を踏まえた実態把握を行うこととした。本研究は、地域社会におけるイスラーム団体と信徒の実態を、国際的なネットワークの上に位置づけることでより詳細に理解することを目指した。同時に、日本のムスリム研究を国際的な研究潮流に接合することも意図した。なお、地域社会におけるムスリムとの交流は、共生課題の発生とは裏腹に低調に留まっていること、地域におけるムスリムイメージについては、メディアの影響が色濃く、一元的かつネガティブな傾向が強いことが報告されている（店田、前掲書）。このような状況にあって本研究は、地域社会のアクターとしてイスラーム団体や信徒の実態を詳細に提示することで、地域社会における相互理解関係の構築に貢献することを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、当初は日本のイスラーム社会研究で等閑視されてきたタブリーギージャマーアト（以下：TJ）を主な対象として、前述の目的に沿った調査研究を実施することを計画していた。しかし、研究の過程で、TJ 以外のイスラーム団体やモスクにも対象を拡大することとした。

[調査 1] TJ に関する調査

TJ は、20 世紀初頭の北インドに端を発する世界最大級の草の根イスラーム復興・伝道運動で

ある。自他のイスラームへの回帰を説き、イスラーム諸国のみならず移民社会において絶大な支持を集めているトランスナショナルな運動である。一方、社会統合をめぐる議論において分離主義的性質を有する団体と批判されるケースもある (Pieri 2015)。各国の TJ はインドの世界本部との緊密な連携関係にあり、地域社会レベルの活動にも世界本部の意向が色濃く反映されているとされる (Pieri, 前掲書)。2017 年現在、日本には TJ の宗教法人が運営するモスクが全国に 19 か所存在し国内最大規模の団体となっている。

本研究は TJ を対象として、組織的側面 (国内外の組織構造・ネットワーク、活動内容)、人的側面 (意識・態度) 両面からの実態把握を行い、日本社会のコンテクストの中でどのように作用しているのかを明らかにすることとした。そのために、(1) TJ に関する資料調査・分析、(2) 団体を対象とする調査、(3) 活動参加者への調査を実施した。

[調査 1]の方法

(1)文献調査：運動の成立過程、活動の拡大過程、組織の構造等に関する基本的な情報の整理を行うほか、TJ による出版物の収集・分析を実施する。モスク等で配布される各種書籍・パンフレット等を収集し思想的枠組みの整理を行う。

(2)団体調査：代表拠点である埼玉県の本モスクのほか、関東に位置する拠点モスク、その他の支部モスクにて代表者を対象として聞き取り調査を実施する。組織構造、成員属性、活動状況、世界・各国本部との繋がり、他団体との関係、地域社会との関わりの実態や方針を明らかにする。なお、当初計画ではこれに加え、国際ネットワークの構造と影響を検証するために世界本部 (インド) およびヨーロッパ本部 (英国)、マレーシアの拠点における聞き取りを実施する予定であったが、インドおよび英国での調査は新型コロナウイルスの感染拡大により中止することとなった。そのため国際ネットワークの構造と影響は、国内における聞き取りを中心に明らかにすることを目指した。

(3)活動参加者に関する調査：対象者の日常生活・社会適応、イスラームや TJ の活動実践に対する意識・態度、周辺社会との関係に関する質問群を用意した。TJ の規範の内面化の状況や活動と日常生活との相関を意識・態度の側面から把握し、対象者の生活世界への視座を得ることを目指した。

(4)地域社会を対象とする調査：自治体や地域社会の組織 (国際交流協会、NPO、町内会、学校) を対象として、共生課題に関する聞き取り調査を実施する。

[調査 2]その他のイスラーム団体、モスクの活動に関する調査

TJ に加えて、その他のイスラーム団体、モスクの活動を把握することとした。団体の組織的側面、人的側面の把握を行うと共に、各団体の活動が日本社会のなかで、どのようなネットワークの元に展開しているのかを明らかにすることを目的とした調査を実施した。

[調査 2]の対象と方法

関東大都市圏、中部東海地方、四国地方、北陸地方に位置する団体及びモスクを対象とした。方法は [調査 1] と同じく (1)文献調査、(2)団体調査、(3)活動参加者に関する調査、(4)地域社会を対象とする調査を実施することとした。各団体、モスクが注力する活動や課題を把握することを目指した。このほか、筆者が過去に実施した質問紙調査 (「外国人住民との共生に関する意識調査」) の結果を基に、地域住民のイスラーム・ムスリムへの認識、態度の検討も実施した。

4. 研究成果

本研究の成果は、タブリーギー・ジャマアトの日本での展開と運動内での緊張や交渉過程の分析を通じた「宗教組織内 多文化共生」(高橋 2015) の検討、日本のムスリムの社会的活動と国内外のネットワーク、地域社会との関係構築のあり方の検討、日本のムスリム社会の多様化と団体・モスクの活動の展開状況の整理に大別される。

は、日本におけるタブリーギー・ジャマアトの活動の整理と参加者の社会的関係を、宗教組織内のサブグループの多様性と交差性、そしてそれらが生み出す社会的関係の流動性に焦点を当てて検討した。分析概念には「宗教組織内 多文化共生」(高橋前掲書)を用いた。1980 年代以降、日本における TJ の活動はニューカマー第一世代の支持を得て拡大と実践面での洗練が進んだ。現在では、次世代を含む新たな参加者も増えている状況にある。国籍、民族、言語、習慣、世代、運動へのコミットメントの度合いなどが異なる多様なムスリムが参加している。このような状況の中で、日本の TJ の活動には宗教的ローカライゼーション、社会的ローカライゼーションという 2 つのローカライゼーションの流れが生まれた。さらに、これらのローカライゼーションに対する参加者間の認識の違いが鮮明になり、宗教的实践や社会的空間としてのモスクのあり方についての議論や緊張が生まれた。

こうした状況の中、マイノリティ・グループの中に複数のサブグループが存在しうること、そして複数の要素がサブグループ間の関係を規定しうることが明らかとなった。本事例の場合、これらの要素には国籍、民族性、言語、習慣、世代、活動へのコミットメントの度合いなどが含まれた。これらの様々な要素が交差することで、マイノリティ・グループ内の人々の力関係やマジョリティ/マイノリティの地位が規定されることが明らかとなった。しかし、同時にサブグループ間の力関係の潜在的な流動性も明らかとなった。次世代ムスリムと改宗者からなるサブグル

ープは、運動内で相対的に劣位にあったが、運動を日本にローカライズする流れが現れると立場が逆転した。TJ 内の社会関係は、サブグループ間の衝突や分離、力関係の創出や逆転、再統合や合意などの営みによる流動性を特徴としていた。本事例を元に、「宗教組織内 多文化共生」は、静的な現象ではなく、むしろサブグループ間の緊張を伴いながら、日常的に実践され、更新されるダイナミックな活動であることを示した。今後は、女性を含むメンバー個々人の立場の違いを含めた、より包括的な分析を進める必要があると思われる。

では、団体やモスクが展開する各種社会支援(移民支援、困窮者支援、地域との関わりなど)や共生に関する活動の具体的な内容を明らかにすると共に、そこに介在するネットワークについて検討した。具体的には、TJ の活動が盛んなモスクにおける「社会的活動」の位置づけをめぐる TJ の活動方針の影響、東京都に位置する団体の社会支援活動の基盤にあるシームレスな国内外のネットワーク(「グローバル近所」)の形成過程、四国地域に位置するモスクのイマームのネットワークと地域の多文化共生との関わり、災害・パンデミック時の活動とそこに介在するネットワークについて検討した。以上を通じて、日本国内で展開する活動が、団体やモスク、あるいは個人が埋め込まれた国内外のネットワークとの関係性の中で展開していることを明らかにした。

またモスク周辺に居住する地域住民 324 名を対象とした質問紙調査の結果をもとに、地域住民のイスラーム・ムスリムイメージの析出を行った。イメージの構造を探索的に明らかにすることを目的として、テキストマイニングの手法を用いて、イスラーム・ムスリムイメージを構成する概念の抽出を行った。その結果、6 つのクラスターが析出された(「評価(地域での接触・経験)」「否定的評価」「表象」「評価」「知識」「否定的感情(恐怖)」)。

紛争・事件などのメディア報道との関連が示唆されるクラスターが認められる一方、地域のムスリムとの接触経験に基づくクラスター(「評価(地域での接触・経験)」)が析出されたことが特徴であった。なおこの結果は、回答者の 9 割がムスリムの知り合いがいないなかで得られたものであった。今後は、こうした状況が、地域社会におけるムスリムと非ムスリム住民との相互行為の中でいかなる変容を遂げるのかを検討する必要がある。

では、日本のムスリムの多様化を人口面から把握したうえで日本のムスリムの実態把握上の課題(「代表性問題」、ムスリム内部の個々人の多様性への接近の必要性)を提示した。また日本のムスリムをめぐる変化、具体的には多世代化・高齢化とそれに対応した活動の展開状況を整理した。具体的には、団体やモスクを基盤とする災害・パンデミックへの対応、老いや死への対応状況を整理した。こうした成果は、今後の日本のムスリム社会の実態把握や変化を捉える上での基礎的な研究としての意義を有すると思われる。本研究課題では、TJ をはじめとして主に団体やモスクといった集団レベルに焦点を当てることが多かった。今後は、日本のムスリムが含む多様性を踏まえつつ、よりミクロな次元にも焦点を当て、研究を深めていく予定である。

[文献(引用順)]

Foner, Nancy and Richard Alba. 2008. "Immigrant Religion in the U.S. and Western Europe: Bridge or Barrier to Inclusion?," *International Migration Review* 42(2):360-392.

Peucker, Mario and Rauf Ceylan(eds.). 2017, *Muslim Community Organizations in the West*. Wiesbaden, Germany: Springer VS.

Pieri, Zacharias. 2015. *Tablighi Jamaat and the Quest for the London "Mega-Mosque": Continuity and Change*. London and New York: Palgrave Macmillan.

高橋典史 2015 「現代日本の「多文化共生」と宗教 今後に向けた研究動向の検討」『東洋大学社会学部紀要』52(2):73-85.

店田廣文 2015 『日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Tamura Mari, Kotani Hitomu, Katsura Yusuke, Okai Hirofumi	4. 巻 16
2. 論文標題 Mosque as a COVID-19 vaccination site in collaboration with a private clinic: A short report from Osaka, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Progress in Disaster Science	6. 最初と最後の頁 100263 ~ 100263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdisas.2022.100263	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kotani Hitomu, Okai Hirofumi, Tamura Mari	4. 巻 82
2. 論文標題 COVID-19 vaccination at a mosque with multilingual and religious considerations for ethnic minorities: A case study in Kanagawa, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Disaster Risk Reduction	6. 最初と最後の頁 103378 ~ 103378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijdr.2022.103378	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村まり, 小谷仁務, 桂悠介, 岡井宏文	4. 巻 33
2. 論文標題 新型コロナウイルスワクチン接種会場としてのモスク 大阪イスラミックセンターと民間医療機関との連携	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際開発学会 第33回全国大会 大会報告論文集	6. 最初と最後の頁 1 ~ 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷仁務, 岡井宏文, 田村まり	4. 巻 65
2. 論文標題 新型コロナウイルスワクチン接種会場としてのモスク：神奈川県海老名市の誰一人取り残さない取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 1 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hitomu Kotani, Hirofumi Okai, Mari Tamura	4. 巻 -
2. 論文標題 Mosque as a vaccination site for ethnic minority in Kanagawa, Japan: leaving no one behind amid the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness	6. 最初と最後の頁 1 - 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2022.78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉宣児, 岡井宏文	4. 巻 20
2. 論文標題 フィリピン系ニューカマー女性と宗教の関わりーライフストーリーの分析からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共愛学園前橋国際大学論集	6. 最初と最後の頁 13-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirofumi OKAI	4. 巻 20
2. 論文標題 Analysis on Non-Muslim Residents' Perceptions of Islam and Muslims in one Local Japanese Community	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共愛学園前橋国際大学論集	6. 最初と最後の頁 99 - 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡井宏文	4. 巻 716
2. 論文標題 日本のイスラーム トランスナショナルな人の移動とムスリム・コミュニティ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okai Hirofumi, Takahashi Norihito	4. 巻 51
2. 論文標題 Conflict and coexistence among minorities within minority religions: a case study of Tablighi Jama'at in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Religion, State and Society	6. 最初と最後の頁 267 ~ 282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09637494.2023.2222616	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡井宏文	4. 巻 29
2. 論文標題 老いと死と向き合う 日本のモスクにおける死の引き受けと埋葬に関する予備的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kotani Hitomu, Okai Hirofumi, Tamura Mari	4. 巻 20
2. 論文標題 Activities and roles of mosques in Japan after the recent major earthquakes: A comprehensive study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Progress in Disaster Science	6. 最初と最後の頁 100297 ~ 100297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdisas.2023.100297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okai Hirofumi	4. 巻 2
2. 論文標題 The Photography Collection of the Greater Japan Muslim League: Its History and Future Challenges	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Archive of the source Materials about the Greater Japan Muslim League: The Formation of the Relationship between Modern Japan and Islamic world	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 老いと死と向き合うー在日イスラーム団体の活動と個人の意識から考える
3. 学会等名 日本移民学会第 32 回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 呉宣児, 岡井宏文
2. 発表標題 二つの国に墓を買う：死を意識しながら生きるあるフィリピン女性移民の語りから
3. 学会等名 日本質的心理学会第19回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 日本のムスリムの老いと死に関する諸問題：イスラーム団体の活動から考える
3. 学会等名 Ageing and Multicultural Diversity The Place of Migrants in Asia 's Ageing Societies(高齢化と多様性ーアジアの高齢化社会の中の移民ー)（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mari Tamura, Hitomu Kotani, Hirofumi Okai
2. 発表標題 Mosque as a COVID-19 vaccination site for ethnic minorities: A Case Study in Kanagawa, Japan
3. 学会等名 The 12th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田村まり, 小谷仁務, 桂悠介, 岡井宏文
2. 発表標題 新型コロナワクチン接種会場としてのモスク 大阪イスラミックセンターと民間医療機関との連携
3. 学会等名 国際開発学会 第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 徳田剛, 岡井宏文
2. 発表標題 地方都市での外国人受け入れにおけるローカルガバナンス構造 愛媛県新居浜市の事例より
3. 学会等名 移民政策学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 「グローバルご近所」の誕生 大塚モスクの支援活動とネットワーク
3. 学会等名 現代中東地域研究推進事業 シンポジウム「現代中東理解のための5つの視角」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 新居浜マスジドと地域の「多文化共生」: 故・浜中彰さんの足跡から考える
3. 学会等名 ワークショップ 日本のムスリムのコネクティビティ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hirofumi OKAI
2. 発表標題 Activities of Muslims in Japan from the Perspective of “Multi-cultural Coexistence (Tabunka-kyosei)”
3. 学会等名 2nd EASSSR(East Asian Society for The Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 在日イスラーム団体の社会活動とネットワーク：日本イスラーム文化センターを事例として
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 イスラームと多文化共生（テーマセッション『現代日本の移民の宗教と多文化共生』）
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirofumi Okai
2. 発表標題 Coping with Aging and Death: A Case Study on Japanese Mosques' Response to the Death and Burial of Muslims
3. 学会等名 International Society for the Sociology of Religion 37th Conference Religions in Dialogue: Transformations, Diversity, and Materiality (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小谷仁務, 岡井宏文, 田村まり
2. 発表標題 被災地におけるモスクの役割: 東日本大震災と熊本地震での支援者として
3. 学会等名 共生学会第2回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村まり, 小谷仁務, 桂悠介, 岡井宏文
2. 発表標題 コロナ禍におけるモスクの役割: 新型コロナワクチン接種会場として
3. 学会等名 共生学会第2回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 老いと死を引き受ける: 日本のムスリムの高齢化と死に関するマシジドの取り組み調査から
3. 学会等名 日本社会に暮らすムスリムを取り巻く課題: コミュニティ、保健・医療、教育、就労の視点から
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hirofumi Okai
2. 発表標題 The Photography Collection of the Greater Japan Muslim League: Its History and Future Challenges
3. 学会等名 International Symposium "The Formation of the Relationship between Modern Japan and the Islamic World" (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員会編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 長沢栄治、岡真理、後藤絵美編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 記憶と記録にみる女性たちと百年	

1. 著者名 黒木英充、後藤絵美編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 292
3. 書名 イスラームからつなぐ ¹ イスラーム信頼学へのいざない	

1. 著者名 子島進、岡井宏文編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 106
3. 書名 ムスリム・コミュニティをつくる：アキールシディキ半生記	

1. 著者名 岡井宏文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 365
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 岡井宏文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 岡井宏文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学文学部	5. 総ページ数 41
3. 書名 東アジアの伝統と挑戦ー東アジア研究へのいざないー	

1. 著者名 店田廣文・岡井宏文・小野亮介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室, 早稲田大学アジア・ムスリム研究所	5. 総ページ数 107
3. 書名 ムスリムが生きた平成の時代 ー遺産・継承・融合・断絶・競合ー	

1. 著者名 岡井宏文・店田廣文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 早稲田大学多民族・多世代社会研究所, 早稲田大学アジア・ムスリム研究所, 早稲田大学イスラーム地域研究機構	5. 総ページ数 65
3. 書名 第10回全国マスジド(モスク)代表者会議「日本のムスリム・コミュニティを問い直す」(所内資料版)	

1. 著者名 岡井宏文・店田廣文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 早稲田大学多民族・多世代社会研究所, 早稲田大学イスラーム地域研究機構	5. 総ページ数 57
3. 書名 全国マスジド(モスク代表者会議)代表者会議・次世代部会「一若者世代とイスラム, 日本一」(所内資料・改訂版)	

1. 著者名 岡井宏文・店田廣文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 全国マスジド(モスク代表者会議)代表者会議・第2回次世代部会「ヤングムスリムとムスリム・コミュニティ: ヤングムスリムの居場所から考える」の記録(所内資料)	5. 総ページ数 69
3. 書名 早稲田大学多民族・多世代社会研究所, 早稲田大学イスラーム地域研究機構	

1. 著者名 岡井宏文・店田廣文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 早大多民族多世代社会 研究所・イスラーム地域研究機構	5. 総ページ数 52
3. 書名 全国マスジド(モスク)代表者会議・次世代部会 「若者世代とイスラム、日本」の記録 2018年2月3日	

1. 著者名 小杉泰・二ツ山達朗・黒田賢治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 大学生・社会人のためのイスラーム講座	

1. 著者名 高橋典史・白波瀬達也・星野壮	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 現代日本の宗教と多文化共生 移民と地域社会の関係性を探る	

1. 著者名 徳田 剛、二階堂 裕子、魁生 由美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 地方発 多文化共生のしくみづくり	

1. 著者名 長沢 栄治、嶺崎 寛子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 日本に暮らすムスリム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

早稲田大学滞日ムスリム調査プロジェクト
<https://imemgs.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------